

先進地を視察し高度な生産工程を体感

太田機械金属工業(協)

2月9日から11日の3日間、青年部会が3年ぶりに先進地視察研修会を開催した。最初に訪れたヤマザキマザックマニファクチャリング株式会社美濃加茂製作所(岐阜県)では、複合加工機などの生産工場を見学。次に訪れた株式会社SUBARUの航空宇宙カンパニー半田工場(愛知県)では、航空機の中央翼の生産工場を見学した。

参加者は先進的な生産工程を目の当たりにして、管理手法やものづくりへの姿勢などを肌で感じ取った。研修後、「有意義な経験となった」、「高い水準のものづくりを学べた。普段の取組みに昇華させていきたい」等の感想が述べられた。



株SUBARU半田工場での集合写真

創立50周年記念式典を開催

太田地区運送事業(協)

2月18日、太田市・ロイヤルチェスター太田において、創立50周年記念式典を開催。組合員の他、行政や関係団体など来賓も多数出席した。

記念式典では、株式会社商工組合中央金庫から



藤田支店長から感謝状を受け取る赤間理事
長



組合の若手を中心とした式典実行委員による「100年宣言」



組合に対する感謝状が理事長に手渡された。続く理事長挨拶、来賓祝辞の後、赤間美代子理事長が、歴代理事長と永年勤続の事務局職員に感謝状を贈呈した。

式典の後に行われた祝宴では、式典実行委員が100周年に向けた「100年宣言」を行った。

職場のメンタルヘルス対策を学ぶ

群馬県商店街(振)連合会

2月21日、前橋市・桑町会館において、前橋地域の女性事業者を対象として、「職場のメンタルヘルス対策～ストレスと前向きに付き合う～」をテーマに研修会を開催した。講師は、特定社会保険労務士の板垣裕司氏。

板垣氏は、過去10年間に労働局に寄せられた個別労働紛争の相談では「いじめ・嫌がらせ」が最も多く、精神障害の労災補償も年々増加していると最近の傾向を解説した。そして、パワーハラスメントにつき、3つの要件である「優越的な関係を背景とした言動」、「業務上必要かつ相当な範囲を超えて」、「労働者の就業環境が害される」を説明し、注意喚起した。

また、労働者のメンタルの不調が2週間を超えて続くと疾病と判断されるため、管理者としては早期発見・早期対応が重要と説いた。

この他、アサーション等によるストレス緩和や、趣味や運動によるストレス解消等、労働者自身のストレスコントロール手法も紹介した。



板垣 裕司 氏

Local Area News

創立50周年記念式典を開催

群馬県鐵構業(協)

3月10日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、創立50周年記念式典を開催した。

記念式典に先立ち、シネマテークたかさき総支配人・志尾睦子氏による記念講演を行った。

続く記念式典では、大竹良明理事長が組合の永年役員・組合員企業の従業員・組合職員に表彰状を贈呈した。

式典後に行われた祝賀会には、行政・関係団体の来賓も多数参加。アトラクションで行ったマジックショーは、来場者を楽しませた。



祝賀会には150名を超える参加者が集まった



大竹理事長(前列中央)と受彰者

古民家再生事例から日本建築の可能性を探る

群馬県コンクリートブロック事業(協)

3月24日、前橋市・ロイヤルチェスター前橋において、「古民家再生を通じて建築を考える」をテーマに講習会を開催した。伝統的な建築資材であるコンクリートブロック材の多様性や美し

さを見直すことが目的で、講師は建築デザイナーのカール・ベンクス氏。

ベンクス氏は、日本における建築の築年数は欧米に比べて短い傾向が見られると説明。

氏が座右の銘にしている「古い家のない町は、思い出のない人間と同じ」という東山魁夷の言葉を借りながら、古民家再生は日本文化の誇りを取り戻すことにつながると思いを述べた。そして、古民家は利便性に劣るため敬遠されがちだが、快適さを追求した再生を施すことができれば、自然と選ばれるようになると語った。最後に、古き良き伝統と現代技術を織り交ぜた建築をすることで、古民家は現代でも活用され、日本文化を守っていくことができると結んだ。



カール・ベンクス氏

アーケード北口の新ゲートが完成

弁天通り商店街(振)

3月24日、弁天通りのアーケード北口の新ゲートが完成し、商店主らがテープカットを行って完成を祝った。今回のリニューアルは、前橋市の区画整理事業により北側の市道が拡幅されたため、新しいゲートは多彩な色が使われ、明るい雰囲気となった。

ゲートのデザインは、前橋工科大の駒田剛司教授が市の景観アドバイザーを務めている縁で、研究室ゼミ生15人が担当した。



線の幅や商店街名のロゴデザインも工夫された新ゲート



テープカットには大學生も参加した